

## いまり暮らし体感ツアー

## 移住するなら、いまりで、決まり！

伊万里の良さを知って、移住先としてもらうため、日常生活に沿った体感ツアーを開催しました。県外の参加者6人は、始めに到着したくすきの杜（立花町）で、先輩移住者2人からの実体験をもとにした話に聞き入っていました。参加者の「伊万里の強みは？」の問いに、先輩は「近所の人が面倒見がいい」、「豊かな自然のなか、静かで暮らしやすい」とアドバイス。民泊での住民との交流をはじめ、地元スーパーでの買い物や市民図書館の見学などで、伊万里の暮らしと食を実感するツアーとなりました。



↑くすきの杜での先輩移住者を囲む座談会で、一気に和やかになった参加者たち

### 山代緑の少年団と松浦少年野球クラブが植樹活動 利用者に快適に過ごしてほしい

山代緑の少年団と松浦少年野球クラブの児童24人が、伊万里松浦球技場（松浦町）のグラウンドなどにイロハモミジ40本を植樹しました。大きく育ったイロハモミジがつくった日陰で、利用者に快適に過ごしてもらいたいとの思いを込めた植樹が行われ、参加した児童たちは、「硬い石が多くあり、スコップで穴を掘ることが大変な場所もあったが、うまく植えられた。大きく育てほしい」、「初めての植樹で少し緊張した。野球などで球技場を利用する人に日陰で休んでもらいたい」などと笑顔で話しました。



↑のり面に植樹する山代緑の少年団の団員たち



↑グラウンドに植樹する松浦少年野球クラブの球児たち

## 伊万里市 DX 推進フェア

## デジタルを活用した業務改革を目指す

『伊万里市DX（デジタルトランスフォーメーション）推進フェア』をロイヤルチェスター伊万里で開催しました。企業に情報活用技術やデジタルに触れる場を設け、業務の改善や効率化への活用方法を知ってもらおうと初めて開催。市内外の15社がブースを出展し、約100人の来場がありました。また、株式会社十八親和銀行（長崎県）と株式会社みらいワークス（東京都）による講演会もあり、来場者は、「事務のデジタル化が社内に浸透していない。解決のヒントを見つけたい」と熱心に聞き入っていました。



↑出展企業から、説明を受ける来場者たち

### オリジナルフレーム切手『桜の駅と伊万里の桜 2023』贈呈式 浦之崎から伊万里の魅力を発信

オリジナルフレーム切手『桜の駅と伊万里の桜 2023』の贈呈式が、市役所でありました。切手は、日本郵便株式会社九州支社（熊本市）が、3月10日に販売したもので、2週間で完売した昨年に引き続き、2回目の発行となります。深浦弘信市長に切手を贈った同社佐賀地方本部長の笹島清香さんは、「多くの人に浦之崎を訪れてもらい、市の発展につなげていきたい」と話しました。浦ノ崎駅の桜は長年地域で守られていることから、この日、浦ノ崎駅桜保存会の多久島繁会長にも切手が贈呈されました。



↑笹島本部長（左から2人目）と保存会の多久島会長（同3人目）、地元の浦崎郵便局の坂田英樹局長（右から1人目）